

初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン（素案）コメント

信州大学教育学部

准教授 佐藤和紀

1. 暫定的なガイドラインとの違い、形式に関して

- 暫定的なガイドラインと何が変わったのかが一読して分からないように思います。
 - 可能な限り、前回ガイドラインと同様の形式で作成するとわかりやすくなるように思います。
 - 暫定的なガイドラインとどこが変わったのかを冒頭で示すとわかりやすくなるように思います。
 - 学校現場向けの資料は、わかりやすさを重視し、スライド形式としたほうが良いように思います。

2. 利活用事例・留意事項に関して

- 留意事項が多く、懸念点やリスクが先に提示されることで「生成 AI は使わない方がいい」という印象を与えてしまう可能性があるように思います。留意事項が活用を妨げるのではなく、適切な利用を促すものであることを明示する必要があるのではないのでしょうか。
 - 利活用事例（具体的な姿勢や実例）をガイドラインの前半に配置するのはどうでしょうか。
 - 懸念や注意点の記述を後半に配置し、前向きな活用メッセージを優先するのはどうでしょうか。
 - リーディングDX スクール事業 生成 AI パイロット校で実践されてきた具体的な事例を例示することで、前向きに実践することに対する説得力を高められるのではないのでしょうか。

3. 情報活用能力に関して

- 情報モラルに重点が置かれすぎている印象があり、他の情報活用能力の育成が軽視されている印象を与えてしまうように思います。（2）生成 AI を踏まえた情報活用能力では、情報モラルの文章のみに生成 AI との関連記述があるため、他の観点・要素では何をどのように実践すれば良いかが不明瞭に思います。
 - これまでの議論に沿った形で、情報モラル以外の 3 観点 8 要素等でも生成 AI の

利活用との関連を整理されることで伝わりやすくなるのではないのでしょうか。

➤ 詳しくは第3回の発表資料を参照していただきたいと考えています。

4. 子供用ツールの現状に関して

- 学校現場の実態に即した生成 AI 搭載の子供用ツールについての記述が不足しているように思います。
 - 3-2 において (3) 等を新設し、実態に即した事例を挙げた上で、「体験しながら気づき、学ぶ姿勢」「教師・大人と共に体験しながら習得する」ことを推奨する内容を加える必要があるのではないのでしょうか。
 - その際、簡潔に利活用に関する注意点と、学校現場における実践的な指針を提示する必要があるのではないのでしょうか。

5. 教員の利活用と児童生徒の利活用に関して

- 教員の利活用、児童生徒が生成 AI を理解すること、学習に生かしていくことに関する記述が混在し、読み手に混乱を与えてしまうように思います。
 - 2. 基本的な考え方、3.学校現場において留意すべきポイントにおいて、教員向けと児童生徒向けを明確に分けた構成に修正する必要があるのではないのでしょうか。

以上